

## 第8節 試験的養殖

### 1. ジャイアントグラミー飼育試験<sup>1,2)</sup>

ジャイアントグラミー *Osporonemus goramy* は、インド、タイ、ベトナムなど東南アジアの淡水域に生息し、体長60cm、体重5kgに達し、現地では食用魚として高く評価されている。水産試験場指宿内水面分場では、新魚種開発の一つとして1981(昭56)年に親魚と稚魚を導入し、同場の地下水により158m<sup>2</sup>の楕円水路式池で飼育試験を行っている。結果は、1983~1994(昭58~平6)年まで『鹿児島県水産試験場事業報告書』の「指宿内水面分場の部」に報告されている。これまでの試験で、本種の生育適水温、成長、産卵期、産卵習性、産卵数、ふ化、餌料(食性)等で多くの知見が得られ、養殖に必要な基本的な技術が確立され、民間との養殖共同試験も行われてきた。しかし、事業化のためには、計画的に十分な採苗ができないこと、成長が遅いことなどの問題が残されている。

### 2. ペヘレイ飼育試験

ペヘレイ *Odonthestes bonariensis* は、アルゼンチン、チリ、ペルー等南米大陸温帯域の河川、湖沼、汽水域に生息するトウゴロウイワシ科の魚である。ふ化後1年で全長17.5cm、体重50g、2年で28cm、体重170gに達する。肉質は白身で小骨がなく淡白で、和風料理ではてんぷら、フライ。刺身等に美味であり、また洋食の素材にも適する。

わが国へは1966(昭41)年に神奈川県に発眼卵が移入され<sup>1)</sup>、この仔魚を親魚として再生産が行われ、各県への移殖が行われている。

本県では、指宿内水面分場が池中養殖や放流用種苗としての新魚種開発を図る目的で、1983(昭58)年に発眼卵を導入して飼育試験を続け、採卵技術、ふ化、稚仔魚の餌料、飼育条件等で多くの知見を得た。この間、民間への養殖普及の目的もあって稚魚を配布、共同試験も行い、1995、1996(平7、8)年には1業者による市場出荷がなされている(1・号)。

本試験については、稚魚期の飼育段階で起こる「突然へい死」の解明が問題点として残されている。

### 3. チョウザメ(ベステル)養殖技術開発試験

ベステル(Bester)は、旧ソ連で養殖種として1958(昭33)年に開発されたもので、降海型で大型の *Huso huso* の雌と、小型で河川型の *Acipenser ruthenus* の雄との交配で作出されたものである。

わが国へは1980(昭55)年に水産庁養殖研究所に導入され、1988(昭63)年に初めて種苗生産に成功した。その後、1991(平3)年に宮崎水試小林分場、1992~1993年に2、3の民間業者が種苗生産技術を有するようになったと言われている<sup>4)</sup>。

本種は成長が速く、水温にもよるが1年で1~1.5kg、2年でおおよそ3kgになる。長く飼育すると体重は15kgにも達する<sup>4)</sup>。

ベステルは本来冷水性の魚であり、繁殖適温は14~17℃、成長道水温は20~25℃である。低温に強いことはもちろんだが、成熟に長い期間がかかるため、試験的に生産されているに過ぎない。また、キャビア生産は事業としてはリスクが大きいと言われており、チョウザメはむしろ食用魚として期待されている。肉は大変美味で、和、洋、中華いずれの料理にも利用できるといわれている<sup>1)</sup>。

本県においては、地域特性を活かした新魚種養殖技術の開発を図るため、指宿内水面分場が1993(平5)年から、宮崎水試小林分場や民間から受精卵や稚魚を移入して飼育技術試験を行っている。その結果、24.5℃の地下水でも、ふ化後11ヵ月で約1kgに成長することが確認されており、今後、ふ

化率や飼育技術の向上のための研究が必要とされている。なお，飼育技術の習得と企業化の可能性を検討するため民間業者との共同試験も行われている<sup>2)</sup>。

#### 4. 参考文献

- 1) 小山鐵雄・他(1983~1990): 新魚種飼育試験(オスフロネムス, ジャイアントグラミー, ペヘレイ). 昭和58~平成2各年度 鹿水試事報.
- 2) 丸山為蔵・他(1987): 外国産新魚種の導入経過. 水産庁研究部資源課・養殖研究所.
- 3) 小山鐵雄・柳宗悦・他(1991~1996): 新魚養殖推進事業. 平成3~6(ジャイアントグラミー), 平成3~(ペヘレイ), 平成6~8(チョウザメ), 各年度 鹿水試事報.
- 4) 大木雅彦(1994~1996): 外国産新魚種導入検討部会報告書(会議資料). 全国河川湖沼養殖研究会.  
(小松 光男)